

平成 30 年 9 月 29 日

平成 30 年度 IR 実務担当者連絡会の開催について（第 3 報）

主催：大学評価コンソーシアム

共催：国立大学法人 三重大学

1. 開催の主旨

IR 実務担当者連絡会は、IR や評価など高等教育機関における現状把握・現状分析に携わる実務担当者が集い、事例紹介と議論を通じて評価および IR における実践知の整理と体系化を図ることをねらいとして、本コンソーシアムが平成 26 年度から開始している勉強会です。

平成 30 年度からは年 3 回の開催となり、夏期は大学評価・IR 担当者集会、冬・春期は IR/IE セミナーの中で実施しています。秋期は単独で実施することとし、今回は三重大学（三重県津市）で開催いたします。

大学評価や IR 業務では、学外秘など取り扱いに注意しなくてはならない情報が多く、「ありのまま」の事例を報告することが難しい状況にあります。しかしながら、大学評価や IR 業務の発展のためには、事例の共有や、事例をもとにした議論は不可欠であることを鑑みて、ギリギリの範囲で事例を共有しようと企画したものです。

本連絡会では、参加者からのご質問すべてにご回答することを原則としていることや、取り扱いに注意を要するデータ等を用いるため、定員枠をあまり大きく設定できず（開催回によってはすぐに満席となり）、参加を希望されるみなさまのご要望に答えられずにいました。そこで今回の連絡会では、2 回報告、報告時間の延長などを実施する予定でしたが、多くの報告申し込み（11 件）をいただいたため、原則的には通常どおりのスタイルになっております。

また、本連絡会の特長である、事例報告をもとに質問・感想票を用いた「質疑応答」（時間は比較的長く設定しています）及び「総合討論」は通常どおり行います。

なお、本連絡会で報告された事例は、参加者だけで共有するには「勿体ない」レベルのものが多くあります。そこで、各報告者には、本連絡会での議論の結果を踏まえ、学内の事情が許す範囲で情報誌「大学評価と IR」へ投稿していただき、参加いただけなかった方を含め、我が国の評価や IR の担当者や関係者と情報を共有していけるようお願いいたします。

また、今回は試行的に同時開催勉強会として「指標の立て方実践講習」を実施します。ご参加について合わせてご検討ください。

2. 日時・会場

平成 30 年 11 月 2 日（金）13：00－16：30

三重大学 総合研究棟Ⅱ

（三重県津市栗真町屋町 1577）

<http://www.mie-u.ac.jp/traffic/index.html>

3. 対象者

【IR 実務担当者連絡会】

参加希望者：評価や IR（現状把握・現状分析）に興味があり、大学評価や学務、経営企画等に
関連する調査等に従事したことがある教職員や IR に関する実践事例等に興味がある方。

- ・平成 30 年 9 月 28 日（金）13 時から、大学評価コンソーシアム Web サイトにおいて申し込みを開始します。
- ・報告者の方と同伴の方 1 名、開催校の方（上限あり）は事前申し込み対象となります（別途ご案内します）。

【指標の立て方実践講習】

参加希望者：指標の策定や運用に携わっている方（原則、実務経験者を対象としていますので
基礎的な講義等はありません）。

- ・ディプロマ・ポリシーや教育目標、中期計画や年度計画の文言から指標を抽出する実践テクニックや、そのための目標設定、計画立案時に心がけることについて、ワークを通して考える勉強会です。
- ・実際に、それらの業務に就いており、業務を進める上で課題をお持ちの方を対象としています。
- ・複数の大学における指標策定や運用の実例報告、それらを事例としたワークだけでなく、実際に皆さまが所属している大学等の「指標化しなくてはならない素材」をお持ちいただき、講師や他の参加者と議論していく内容です（簡単に指標が設定できる方法論や理論は基本的でないため）。
- ・平成 30 年 9 月 28 日（金）13 時から、大学評価コンソーシアム Web サイトにおいて申し込みを開始します。
- ・タイムテーブルは以下のとおりです。班は 4 名程度で構成し、原則 1 つの班に 1 名の担当者が付いて作業を支援します（予定：畠田敏行 [茨城大]、大野賢一 [鳥取大]、末次剛健志 [佐賀大] ほか）。
13：00－13：30 趣旨説明・講義
13：30－14：15 演習 1（架空の大学の指標設定演習 [個人、グループ]
14：30－15：20 事例紹介（2，3 大学を予定）
15：20－16：20 演習 2（自大学の指標設定演習 [グループ]
16：20－16：30 まとめ

4. 定員

【IR 実務担当者連絡会】 1セッションあたり 30 名程度（途中でのセッション間移動は想定しておりません）

【指標の立て方実践講習】 15 名程度

5. 参加費

徴収しません。

6. 注意

- ・「ここだけの話」的な雰囲気の確保のため、**録音、撮影はご遠慮ください。**
- ・運営スタッフが録音、撮影を行います。録音は報告者への提供用です。撮影した画像は報告用 web ページの素材として小さくトリミングして使います。
- ・原則として要点を記したレジюмеもしくはスライド資料を配布します。

7. タイムテーブル

IR 実務担当者連絡会の基本的なタイムテーブルは以下のようになります。2つのセッション(部屋)がありますので、いずれかを選んでお申し込みください。

ルーム A :

13:00-13:05 趣旨説明

13:05-13:20 「テキストマイニングによる授業アンケートの分析」

藤川昌幸(九州産業大学 大学改革推進本部大学評価室)

概要:平成29年度の授業アンケートでは、通年で延べ76,847件の自由記述が得られた。しかしながら、これらの自由記述を俯瞰し、客観的に全体的な傾向を把握することは極めて困難である。そこで、テキストマイニングによる自由記述の客観的な分析を試みた。

13:21-13:36 「アメリカの適格認定に関する大学の活動の実態—適格認定プロセスと学習成果の測定を中心に—」

藤原 将人(立命館大学 教学部学事課)

概要:本発表では、発表者がアメリカの6大学に対して行った訪問調査(2018年8月実施)により得られた知見から、アメリカの大学の適格認定(ア krediteーション)のプロセスと学習成果の測定(アセスメント)の事例を整理して参加者と共有するとともに、日本の大学評価の方向を検討したい。

13:37-14:07 「日本型 IR 履修証明プログラムに関する検討」

○藤原宏司(山形大学 学術研究院)、浅野茂(山形大学 学術研究院)、鈴木達哉(山形大学 EM 部 EM 企画課)、○山本幸一(明治大学 教学企画部 教学企画事務室)ほか1名

概要:山形大学では、IRの初心者を中心に「IRおよびIEに関する実践プログラム」を開発中である。藤原(2015)が整理した米国におけるIR履修証明プログラムを参考に、IR担当者として最低限必要な知識および技術の修得を「IR入門」「IR応用」「データマネジメント&分析」「IR実践」の4科目を通じて目指す。本発表では、上記プログラムの詳細を共有する。

14:08-14:23 「外国人研究者の他の研究者に与えた影響について 書誌情報からの一考察」

大島昭子(宇宙科学研究所)

概要:国際共同研究や国際共著率の増大、また外国人研究者を増やす事が言われるが、こういった政策が日本人研究者の研究活動や研究機関に与える効果はどのようなのであろうか。我々の研究所では、世界で活躍する若手研究者を一定期間雇用する制度があるか、この制度で雇用した研究者が機関にもたらした影響について書誌情報から

一考察した結果について報告する。

- 14：23－14：40 質問・感想票記入
14：40－16：20 質疑応答・総合討論
16：20－16：30 まとめ・アンケート記入

ルーム B：

- 13：00－13：05 趣旨説明
13：05－13：20 「志願者・合格者・入学者の動向を把握する」
橋本智也（四天王寺大学 IR・戦略統合センター）

概要：学内に蓄積されている志願者・受験者・入学者に関するデータを用いて、過去から現在まで、それぞれの人数や学力などがどのような動向にあるのかを把握し、共有する方法について、集計の手順、グラフの作り方、情報の伝え方など実務的な観点を交えながら報告する。

13：21－13：36 「本学の中退対策への学内意識共有と K P I 策定、今後の具体的な取り組みについて」

○金木 宏心（東日本国際大学 総合企画部）、関沢 和泉（東日本国大 IR 室）

概要：2020 年度より、公表化されると言われている中退率。IR 室で本学の現状を調査し、その高さに驚愕した。今年度 6 月より中退対策特別委員会を設け、IR 室から現状を教授会、FD・SD 研修会で情報共有し中退対策への意識を醸成した。K P I を策定した現在、具体的な取り組み（現在進行中と予定）の事例を紹介し、各大学からの意見を頂きたい。

13：37－13：52 「大学生の語彙力を測定するためのテスト開発について」

○浅野 茂（山形大学 学術研究院）、藤原 宏司（山形大学 学術研究院）ほか 1 名

概要：山形大学において、すでに実施している基盤力テストの一環として「学士力」の基盤をなす日本語の「語彙力」を測定するための独自テストを開発している。本テストは、これまでの研究を通じて整備されている日本語学術共通用語を参考に、独自の用語を追加して充実する用語集を用いて、直接評価できる測定手法の開発を目指すものである。本発表では、語彙力テストの狙いと開発状況、実施手法などについて報告する。

13：53－14：08 「学修成果指標としての GPA の妥当性」

岩野 摩耶（明星学苑 理事長室統合 IR センター）

概要：このセッションでは、SAS を活用した GPA にまつわる分析例などを紹介する。GPA は平成 20 年の中央教育審議会が取りまとめた「学士課程教育の構築に向けて（答申）」の中で、教育の質保証に向けて厳格に適用することが言及されている。平成 20 年の答申や他大学の事例を踏まえ、GPA の妥当性について議論するための話題を提供する。参加者とは、（導入している場合）自大学の GPA 制度について、情報交換したい。

14：09－14：24 「摂南大学における IR のためのアセスメントの取り組み」

寺内睦博（摂南大学 教育イノベーションセンター）

概要：摂南大学で準備を進めつつある学生の基礎能力調査と実態調査の概要と、DPの達成度を自己評価するルーブリックの利用と問題点について報告する。

- 14：24-14：40 質問・感想票記入
14：40-16：20 質疑応答・総合討論
16：20-16：30 まとめ・アンケート記入

8. スタッフ（予定）

【IR実務担当者連絡会】

浅野茂（山形大）、岡部康成（帯広畜産大）、小湊卓夫（九州大）、関隆宏（新潟大）、田中秀典（宮崎大）、橋本智也（四天王寺大）、藤井都百（九州大）、藤原宏司（山形大）、藤原将人（立命館大）、山本鉦（九州工業大）、山本幸一（明治大）ほか

【指標の立て方実践講習】

畠田敏行（茨城大）、大野賢一（鳥取大）、末次剛健志（佐賀大）、佐藤仁（福岡大）、土橋慶章（神戸大）ほか

9. 申し込み方法

○ 参加希望の方は大学評価コンソーシアムのwebサイト（9/28 13時）からお申し込みいただく予定になっておりましたが、現在、システム不具合のため、受付を一時見合わせております。再開日時につきましては、分かり次第連絡いたします。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=member>

・申し込み開始日から最初の1週間（10月4日（木）まで）は、1セッション（IR実務ルームA、ルームB、指標の立て方実践）ごとにそれぞれ、1大学1名のお申し込みでお願いします。

10. 問い合わせ先

茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門 畠田 敏行

toshiyuki.shimada.ir@vc.ibaraki.ac.jp

電話：029-228-8252（AP事業室）

鳥取大学 学長室 大野 賢一

ohno@tottori-u.ac.jp

電話：0857-31-5706

11. 次回以降の予定（含む関連イベント）

平成31年3月上旬 継続的改善のためのIR/IEセミナー（会場調整中）

12. 謝辞等

○ IR実務担当者連絡会の開催には、以下の資金も利用しています。



- ・平成27年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（B）
「大学の評価・IR機能の高度化のための実践知の収集・分析とその活用に関する研究」（課題番号：15H03469、研究代表者：畠田敏行）ほかほか